

① 三月十八日の北日本新聞を讀んでの感想

富山市立船峽小学校 三年

丸山 美琴（まるやま みき）

朝、わたしのおいちゃんが新聞を讀んで

「おっちゃん、写<sup>つ</sup>とるいや。」

と言<sup>つ</sup>じたので読<sup>み</sup>おと親せきのおじさんとまなみちゃんか写<sup>つ</sup>ていてびっくりしました。

おじさんは十年前から近所の子どもたちの集團登校に毎日かさずつきそ<sup>つ</sup>ているそう

です。また、登校だけ<sup>て</sup>はなく下校の時も見

守りの活動を行<sup>つ</sup>ています。けんこうじやな

いとつづける事<sup>が</sup>出<sup>き</sup>ないし、だれかのため

に十年おつづける事は大へんな事なのですご

いと思<sup>い</sup>ました。

わたしの通学路<sup>が</sup>も、子どもたちが安全に

登校でき<sup>る</sup>ように地いぎの方が見守<sup>つ</sup>てくだ

さり、朝家の前に立ち、一人一人にいつもあ

いさつをしてくださり、

「おはよう、いっせうっしやい。」

と、声をかけてくださるので私も元気よく  
おはようございます。いってききます。  
と、あいさつをして、気持ちよく赤い事か出  
来ます。

雨が急にふってきてこまっていたる日さを  
かしてくださったたり、風が強い日には、ふさ  
とばさずそうにかるので、いっしょに登校して  
くださいます。

また、夕方にお母さんと買い物に行く途中  
他の校区でも、見守りの布が立っておられる  
のを見かける事があります。

わたしたちがいつも安全にそして安心して  
生活できるのは地いきの方のおかげなのだと思  
いました。

これからも、かんしゃの気持ちをこめてあ  
いさつをしていきます。

そして、わたしがいつかお母さんにかつた  
ら自分の子どもたけいなく地いきの子ども  
たちが安全に生活できるように見守りたいと  
思います。